

計画の重要性！

2009年も早いもので10月になり、今年度も半分が過ぎました。年度当初に掲げた目標は、どの程度達成できたでしょうか？計画どおり順調に進んでいる人、思ったとおりに進んでいない人、達成状況は様々だと思えます。

さて、10月といえば季節はもう秋です。「食欲の秋」「スポーツの秋」「読書の秋」など、秋の表情はいろいろです。ふと、周りの風景を見渡すと山々では葉が色づき始め人々を楽しませてくれます。そんな秋の景色を見ながら、緑地に関して先日テレビで目にしたことについて、ここで少し紹介したいと思います。

その番組では、戦前、戦後、現代の東京を上空から撮影した映像が取り上げられていました。戦前は、低層の建築物が建っており、戦後になると戦時中の空襲による一面の焼け野原、そして現代においては、戦前の映像とは対照的に超高層ビルが立ち並び時代とともに街並みの変化が確認できるとも興味深い映像でした。その中で、とても興味をひかれたものは、現在、超高層ビルが立ち並ぶ東京の真ん中に、一際目立つ緑地が映し出されていたことです。都会の中に、これだけ広い緑地があったのかと驚かされました。

その広さ約70万平方メートルもの広大な緑地は、『明治神宮の森』と呼ばれ、明治神宮を創建する際に、元々森がない荒地に150年構想で計画された人工の森です。この森づくりは、1915(大正4)年よりスタートし、林業・造園に関する一流の学者らが、育っていく木と枯れてしまう木を考慮した上で、どこにどの木を植えるのか等を話し合い、150年後には人の手を必要とせず天然更新していく『永遠の森』を目指し厳密に計画し、植栽して



いったものでした。当時の内閣総理大臣であった大隈重信が、『杉の森にすべきだ』と言ったことに対し、学者らは反対し、水気が多いところでは杉は育つが、関東ローム層であるこの場所では不向きであり杉が都会には適さないことを説明し納得させたとのこと。もし、この時に学者らの意見に耳を貸さずに杉を植えていたのなら、今の広大な森はなかったのかもしれない。

90年後の現在、すでに元々自生していた木々は姿を消し、今ではその土地本来の性質に合致した木々が森を形成し始め、計画の実現に向けて進んでいます。

『人工の森』から人の手を借りずに天然更新していく『永遠の森』を目指すこと、その目先の事にとらわれることのない150年先を考えた計画にとっても感動しました。また、自分自身の仕事においても、計画の重要性を実感させられました。ただ理想論を掲げた計画を見出すのではなく、計画を実施し、継続していくことが重要なのです。さらに、専門家や研究者、そして実際に現場で働く人々の知恵や経験を反映させたものでなければ様々な問題を予測し、解決することは困難であるということを痛感しました。



三浦市は、『人・まち・自然の鼓動を感じる都市みうら』を2025年の将来像として掲げ、その達成を目指しています。遅いと言われるかもしれませんが、構想や計画の重要性を改めて気付き、今後も目標の実現に向け、自分自身の考えをしっかりと持ち、そしてそれをまちづくりに反映させていくことができるよう、スキルを高め、努力を惜しまずに頑張っていきたいと思えます。

(秘書課 藁谷 麻澄)

「ぼっこすこせえる」とは・・・神奈川県三浦市には三崎弁と呼ばれる方言があります。「ぼっこす」は「ぶち壊す」の意味、「こせえる」は「こしらえる」という意味です。つまり、「ぼっこすこせえる」は「ぶち壊し、こしらえる」=スクラップ&ビルドという意味になります。

暴論オピニオン (30)

三浦市政経営課では、行政経営全般について日頃から様々な無責任放談をしています。このコーナーではその放談の中で飛び出した暴論をご紹介します。両手を挙げて賛成できないまでも発想のヒントくらいにはなるでしょう。

脱・終身雇用！

日本人は他の国の人と比べて、仕事に対する満足度が低いと言われている。満足度についてのある調査結果では、日本人の自分の仕事に対する満足度は世界最低レベルとなっており、この一因は日本の終身雇用制度にあると筆者は考える。

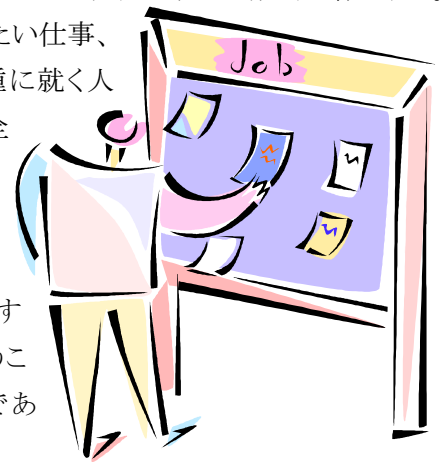
終身雇用制度には、「教育訓練投資が無駄にならない」、「生活が安定する」等といった企業・従業員双方のメリットがあり、日本の社会はこれまで終身雇用とともに成長してきた。しかし、反面、「高齢化による労務コストの増加」や「無気力がはびこる」といったデメリットがあり、さらに終身雇用という制度が、「転職が困難な社会構造」を作り出してしまったということに問題意識を持つべきだと考える。つまり、終身雇用のために、中途退職者が少なく雇用も発生しない。雇用の流動性がない社会になってしまっているのである。不況の影響もあり、中高年層を中心に雇用相場は非常に厳しい状況である。

この転職が困難な社会構造の問題は、やり直しが難しい社会構造となってしまうことにある。一度就職すると、嫌な仕事やあわない仕事でも、一生続けるしか選択肢がなくなってしまう。いわば仕方なく仕事を続ける状況となってしまうのである。このことが日本人の自分の仕事に対する満足度を下げる一因であると考えるのである。

そこで「脱・終身雇用！」を提案する。市役所、公務員を含めて日本社会全体で「脱・終身雇用！」である。社会全体が終身雇用をやめれば、雇用の流動性が生まれ、転職の機会が多くなる社会になるのである。

一時的には失業に対する補償や、転職に対する公的支援なども必要になり、法改正も必要かもしれない。派遣切りやリストラなどが問題となる現在の社会情勢では、将来への不安が大きくなる可能性もあり、多くの方の賛同はいただけないかも知れない。

しかし実現すれば、やり直すチャンスが多い社会となる。就職に失敗しても何度かチャンスが訪れ、自分のやりたい仕事、自分にあった職種に就ける機会も増加する。そして自分のやりたい仕事、自分にあった職種に就く人の増加は、社会全体のモチベーションをあげ、個人の適正、能力、可能性を最大限活かす社会ができるということにつながるのである。



「終身雇用による安定を求め、嫌な仕事やあわない仕事を仕方なく続けるしかない社会」と「将来は保障されていないが、自分にあった職種、自分のやりたい仕事に向けやり直すチャンスが多い社会」、選べるならば筆者は「やり直すチャンスが多い社会」を選びたい。

次号(第40号)は11月19日発行です。



三浦市長の吉田ひでおです。2005年度より、東北、関西、中部地方などの旅行会社に教育旅行誘致のための営業活動を地道に実施してきた成果がようやく見え始めました。

当初、三浦市の認知度は「ゼロ」で、大変苦戦を強いられてきました。時には民宿のおかみさんにも営業活動に同行いただくなど、関係者の皆様と一緒に粘り強く営業活動を続けてきた結果、10月1日から2日に2校の修学旅行を誘致することができました。これは、自然体験や地場製品の豊富さなどのポテンシャルや粘り強い営業活動に加え、民宿のおかみさんが醸し出す三浦の「もてなし」の心が伝わったからではないでしょうか。

今回の修学旅行では、マグロの解体ショーや大漁旗作りの体験など「三浦ならではの体験」を満喫してお帰りいただけたと聞いており、大変嬉しく思っています。こうして皆様に楽しんでいただくことが、営業意欲を更に向上させ、もっと楽しんでもらいたいという「もてなし」の心にもつながります。今回の成果をきっかけに、たくさんの方々が教育旅行で三浦市に訪れていただけるよう「もてなし」の心で営業活動を行っていきます。